

瓜の名産は山城の狛里と詠たれど、今は此鳥羽に作れる甜瓜美味にして他境に勝れり。祭法にも夏と秋との祀には用るとなん。又南史にいはく、滕曇といふもの五歳の時母熱病を患て寒の中に瓜を食せん事をおもふ。滕曇四方を歴訪すれども得る事能はず。時にひとりの神仙出て我に双瓜あるとて一ツを分て相遣る。人々これを見て寒瓜なりと大に驚異す。是至老の天に通ずとやいふべき。／初真桑瓜豎にやわらん輪にやせん ばせを